

同志社女子大学一般入試現代文対策講座

○同志社女子大学の現代文について（傾向と分析）

2018年度入試出題出典

- 一月二十六日 田端博邦 『幸せになる資本主義』
 - 一月二十七日 竹井隆人 『社会をつくる自由―反コミュニティのデモクラシー』
 - 一月二十八日 藤野寛 『「承認」の哲学 他者に認められるとはどういうことか』
 - 一月二十九日 平瀬礼太 『〈肖像〉文化考』
- 2019年度入試出題出典
- 一月二十六日 山崎正和 『歴史の真実と政治の正義』
 - 一月二十七日 木下長宏 『自画像の思想史』
 - 一月二十八日 平子義雄 『公共性のパラドックス』
 - 一月二十九日 大庭健編 『職業と仕事・・・働くって何?』

【対策について】

☆ 試験直前の時期に何を意識すべきか

とにかく過去問の演習を！（設問のパターンを意識しておこう）

「漢字語句系問題」

本学過去問とセンター試験過去問で最後の仕上げを

「語句・文章挿入系問題」

接続詞はその働きに注目

語句挿入は、選択肢間の意味の違いを明確に

脱文補充は文章の意味のつながりを意識

「文章内容系問題」

とにかくできるだけ早く『本文の着地点（主旨）』を読み取る

☆ 文章を読むスピード、主旨をつかむ精度を上げるためには

『入試問題を読むこと』が最善かつ催促の対処法！！

ポスト・モダン

「文章を読み解く力とはいったい何か？」

現代文は『冒頭』に着目することが必須

論説文の設問の典型的な構造から入試問題を分析

※ 設問が成立するためには、ある一定の条件を満たさなければならない

☆『前提』 ↓ 『問題提起』 ↓ 『論証』 ↓ 『種明かし』

・『前提』がもつ意味合い

・そして『問題提起』が現れる

・『論証』はどのように問題に問われるのか

・『主張』はここで『再確認』されることに

入試問題の設問は、ひとつの物語を効果的に表現する誘導である

エリート → 大衆

過去問演習で考えてみよう

知識、はたして

制度化に締めだされて成立した教養を救い、たくみに社会的地位を与えたのも揺籃期の大衆社会であった。そしてそのための唯一の方法こそ、ほかならぬ知識の商品化であり市場化だったのである。一般に生成期の大衆社会は生活様式のすべてについて、まず過去の権威を破壊するよりも、それを奪いとって自分たちの所有にしようとする。余暇の過ごし方であれ贅沢品の選択であれ、まったく新規の価値をつくるまえに、過去の特権階級の価値観を真似ようとする。知識についても同じ経過が見られたのであって、初期の大衆は教養を貴族の蔵から奪い出して市場に乗せた。

「今や知識と美とを特権階級の独占より奪い返すことは進取的な民衆の切実な要求である」と書かれていたのは、その意味で示唆深いといえる。

幸いにも、知識に先んじて娯楽を商品化することは十七世紀から始まっていた。都市に遊園地が設けられ、酒場や喫茶店が開かれ、劇場や音楽ホールが民衆に開放されていた。印刷物でさえゴシップ新聞、リョウキの読み物のかたちで、代価を払えば誰にでも楽しめるように普及していた。おそらくそのことが、やがて新聞が高級化し政治的なパンフレットが販売され、知識が商品化されることに大いに寄与したにちがいない。娯楽も知識もともに心の満足をもたらすものであり、商品化されたときそれ自体は目に見えないものである。どちらにも直接に「I」的生命的イジには必要がなく、社会的な需要が客観的なかたちでなりたちにくい。要するにどちらもサービスなのであるが、サービスを本来の顔の見える個人関係からひき離して、普遍的な市場に乗せたのが大衆社会の革命だったのである。

そのさい最大の困難は市場の予測であり、いわゆる生活必需物資とは違って、商品が生まれるまえにそれになりたいという需要がわからないということである。

B 豊かな社会では需要が複雑に多様化し、必需物資とサービスの差がしだいに曖昧になることは知られている。しかし境界は「II」的になっても比較的な違いはあって、いつの世にもより客観的な必要と主観的な需要の区別があることは疑いない。暖かい衣服の必要は安定しているが、

III 的なデザインの衣服の需要はつねに予測が困難だといえる。そして純粋なサービスというべき娯楽や知識になると、需要は商品化のまえに存在せず、商品化が逆に需要を創造するといふ逆説がなりたつのである。

可なりわち、つり、

新しい楽しみや学問上の新発見は、そういうものが欲しいという大衆の要求に
応えてつくられるわけではない。漠然とこれまでにないものが欲しいという
欲望はあっても、それが特定の「これ」という自覚は、満足を与えられて初
めて成立する。それどころか厳密に言えばそれを創造する人間にとっても、何
を創造するかというところがあらかじめわかっているわけではない。最初にある
のはやはり漠然とした気分であり、一定の幅を持った創造への衝動にすぎな
い。彼はそれを確かめるように言葉やイメージを選び、磨いたり組み替えた
り、内面の手仕事を試行錯誤しながら逆に創造の目的を発見するのである。

この過程が小さなサロンのなかで行われるときには、試行錯誤の危険も比
較的少ない。創造者とパトロンの趣味は近いから、両者の満足は創造の途中
でも調整できるし、万一それに失敗しても無駄の失費は最低限に抑えられる。

C さいたの場合、パトロンは創造者の背後でその共同業者として
働くから、ここでは供給と需要の対立は生じにくい。だがこの作業が大衆社会
のなかで起こり、顔の見えない市場を舞台にし始めると需要と供給は対立する
し、供給者側には大きな資本が必要になる。なにより難しいのは大衆社会の本
質的な矛盾であって、それが均質化を愛するくせに多様化を求めるといこと
である。市場はつねに新しいサービスを要求しながら、ほんとうに新しいもの
にはわがままに言うて拒絶を示すのである。

これにたいして音楽は巧みに対処して、需要の予測を簡単にする方法を発見
した。なるべく大衆の理性でなく感情に訴え、それも IV 的に確立した、
大まかな分類の可能な感情に的を射たのである。スリルやサスペンス、ソ
ボクな好奇心や冒険心、笑いや怒りや同情心、「家庭の幸福」や「危機一髪
の救済劇」が主題とされた。供給者にとっては、これは生産の目的があらかじ
め確定しているということであり、後は工業生産と同じくその生産技術に工夫
をこらせばよい。消費者の側からいえば、商品を買うまえにその機能の大枠が
わかるということであり、後は技術の細部に多様性を楽しめばよいことにな
る。

D 不幸にもこれができなかったのが、純粋な藝術とならんで知識であ
った。知識のなかでも実用性を眼目とせず、制度によって需要が強制される
ことのない、いわゆる教養であった。知識とは V 的に知らないことを
知ることであるから、需要とはその無知の状態にほかならないが、無知の内容

をあらかじめ知るといえるのは形容矛盾である。「歴史を知りたい」「経済史を知りたい」といった要求はあっても、どのように書かれ、どんな発見のある歴史を知りたいのかは読むまえにはわからない。もしその要求を、^d テッテイ的に細分化して限定できれば、そのとき読者は自分で一冊の歴史書を書きあげているだろう。

知識が市場に乗るためには、社会にまず無知の自覚がなければならぬが、制度の強制によるものはそれを創出するのは難しい。初期の大衆社会でこれを助けたのが「啓蒙」の思想であり、大衆自身の側では過去の特権階級にたいする平等の要求であった。何を知らたいか、知る必要があるかはわからなくとも、現にものを知る少数者がいるという認識は、多数者の競争心をかき立てた。その段階では、まだ教養のかたまりの部分には系統性を保ち、それが大学の制度によって目に見える権威を保証されていた。そのうえ忘れてはならないのは、少なくとも二十世紀前半までは、どこの国でも特権的知識人と「草根」大衆のあいだに、インテリゲンチヤと呼ばれる中間的知識人が階層をなしていたことである。

「進取的民衆」と岩波文庫の発刊の辞が言う階層であるが、この階層の二重性が知識の市場化を推進した。彼らはなんらかの知的資格を持つ人であり、「草根の根」にたいして知識の権威を守る人であるが、同時に「草根の根」と生活上の一体感を覚える立場にいた。彼らの多くはマルクス主義の影響を受け、そうでなくとも進歩主義を理想とする信念の人であった。皮肉に言えば、彼らは知識の閉鎖的ギルド(注)を否定する程度にはすでに二十世紀的であり、価値観の相対性を認めるほどにはまだ二十世紀的でない人びとであった。当然ながら、エこの立場ほど啓蒙にふさわしく、それを強く効果的にするものはない。彼らは公然と民衆の無知に警告を加え、その広範な自覚を植えたのであった。

だが二十世紀の最後の四半世紀に、この啓蒙の機運も二つの理由で消滅に向かった。一つは人文学の体系性の解体であり、教えるべきもの学ぶべきものの自明性の喪失であった。もう一つはいわば啓蒙の成功の皮肉であって、中間的知識人の量が増えて階層としての意味がなくなったことである。とくに日本では大学卒業者の数が爆発的に伸び、制度的資格を持つ人間が氾濫することになった。知的な「草根の根」の概念が曖昧になるとともに、大学の膨張はかつて

特権的だった大学教師の権威を引き降ろした。下からも上からも知識社会の境界がeクスズされて平準化とともに啓蒙の滝を落とすエネルギーも消えたのである。

今日の教養の危機は、したがって知識の市場化の困難が裸で現れた状態といえる。新しい退廃が起こったというより、本質的な問題がその本来の姿を見せただけだと考えたほうがよい。無教養を恥じる人間が減り、向上心が衰えたと嘆くよりは、その芽生えは教養の誕生とともにあったことを思いだすほうがよい。そしてオ啓蒙という傲慢な方法が歴史の過去に去ったことを認めたらうで、それに代わる現実的な処方箋を探すべきだろう。

(山崎正和『歴史の真実と政治の正義』より。ただし本文の一部を改めた。)
(注) 知識の閉鎖的ギルド——「ギルド」とは、中世ヨーロッパに行われた特権的同業者組合のこと。ここでは知識が限られた層の人間にのみ特権的に共有される状態の比喩。

問一 傍線部aとeと同じ漢字を使うものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

a リヨウキ

① 会社のドウリョウ ② 日本のリョウド

③ リョウでクマを撃つ ④ 風邪のチリョウ

⑤ キリョウのよい娘

b イジ

① イヨウを誇る連山 ② 食物センイを撰取する

③ 事のケイイを踏まえる ④ イシユクした態度

⑤ イコンを晴らす

c ソボク

① ジュンボクな性格 ② ボクチクが盛んな国

③ ダボクによる外傷 ④ 王のチュウボクだった男

⑤ ボクジュウで字を書く

d テッテイ

① 初志をカンテツする ② 大臣をコウテツする

③ テッベキの守り ④ 前言をテツカイする

⑤ テツガクを学ぶ

e クズされて

① ホウビを与える ② 新聞によるホウドウ

③ 病人をカイホウする ④ 壁がホウラクする

⑤ ホウヨウ力がある

問二 波線部あ・いの語は、文脈上、どのような意味か。最も適切なものをそれぞれ次

の中から選び、番号で答えなさい。
あ 逆説

予い
盾
三ッ
ダ
ッ
ス

- ① 論理展開の上で、原因と結論が混同されているさま
- ② 言語表現のしかたが風変わりで、ひどくこっけいな言説
- ③ 真理に背いているようで、真理を言い表している言説
- ④ 真理へのプロセスが複雑で容易には理解できない言説
- ⑤ 述べられている二つの物事が食い違っているさま

い 処方箋

- ① 打開策
- ② 青写真
- ③ 金字塔
- ④ 善後策
- ⑤ 目論見

問三 空欄A～Dに入る語句として最も適切なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。ただし、同じものを重複して用いることはできない。

- ① しかし
- ② もちろん
- ③ ちなみに
- ④ それならば
- ⑤ むしろ

問四 空欄I～Vに入る語句として最も適切なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。ただし、同じものを重複して用いることはできない。

- ① 短絡
- ② 漸層
- ③ 伝統
- ④ 本質
- ⑤ 生理
- ⑥ 先端

問五 傍線部ア「その意味で示唆深いといえる。」とあるが、何を「示唆」というのか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

① 揺籃期の大衆社会が、制度化から締めだされた教養を救って社会的地位を与えたこと。

② 揺籃期の大衆社会において、知識の商品化および市場化による市場の独占がはじまったこと。

③ 余暇の過ごし方であれ贅沢品の選択であれ、模倣から始まりやがて創造にいたること。

④ 幸いにも、知識に先んじて娯楽を商品化することが十七世紀から始まっていたこと。

⑤ 生成期の大衆社会が、過去の特権階級の教養などを自分たちの所有にしようとしたこと。

問六 傍線部イ「この過程」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

① 新しい楽しみや学問上の新発見はそれを欲する需要を生まれてこそなされるものであり、その需要がさらなる楽しみや新発見を生み出すものであるということ。

② 大衆も創造する人間も初めは具体的な欲求を持っておらず、互いの気分や衝動を採っていくことによって新しい楽しみや学問上の発見は形作られていくということ。

本文の主旨

逆説

過去の特権階級の教養などを自分たちの所有にしようとしたこと

③ 新しい楽しみや学問上の新発見を創造する目的はあらかじめ明確になっているのではなく、創造への衝動を手探りで確かめるなかで後から発見されるものであるということ。

④ 創造する人間がこれまでにないものを欲する漠然とした気分を高めることで、新しい楽しみや学問上の新発見がもたらされることになるということ。

⑤ 新しい楽しみや学問上の新発見は、あらかじめ存在している創造の理由に沿って試行錯誤が繰り返されることによりなされるものであるということ。

問七 傍線部ウ「中間的知識人」についての説明として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

① 中間的知識人は知識が一部の専門家に独占されることには反対したが、知識自体の価値は疑わなかった。

② 中間的知識人は知識が大衆化されることには積極的に取り組んだが、大衆と同一視されることを嫌った。

③ 中間的知識人は社会における価値観の相対性や意識の高まりとともに、特権的知識人の権威を引き降ろした。

④ 中間的知識人は特権的知識人と「草の根」大衆のあいだにあって、両者の境界をなくすことに成功した。

⑤ 中間的知識人は特権的知識人によって「啓蒙」された結果、インテリゲンチヤと呼ばれるようになった。

問八 傍線部エ「この立場ほど啓蒙にふさわしく、それを強く効果的にするものはない。」とあるが、「この立場」とはどのような立場か。その説明として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

① 知識の閉鎖的ギルドを否定せず、同時に価値観の相対性をも認めようとしないう立場。

② 知識の権威を守る人でありながら、大衆との距離が近い立場。

③ マルクス主義の影響を受け、進歩主義を理想とする信念を貫く立場。

④ 教養のかなりの部分が持つ体系的によって、目に見える権威を保証される大学の立場。

⑤ 公然と民衆の無知に警告を与え、彼らに対し自覚を促す義務を負わされた立場。

問九 傍線部オ「啓蒙という傲慢な方法」とあるが、「啓蒙」のどのような点が「傲慢」といえるのか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

① 啓蒙家の多くがマルクス主義の影響を受け、進歩主義を理想とした点。

② 啓蒙家が知識を独占していた特権階級から強引に知識を奪い取った点。

③ 啓蒙家が民衆の無知に警告を与え、その広範な自覚を植えつけようとした点。

④ 大衆が何を知らないうかからないうま、啓蒙家から知識を得ようとした点。

⑤ 知識の市場化は困難であるにもかかわらず、啓蒙家がそれを強力に押し進めた

点。

問十 本文の内容と合致する選択肢として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- ① 娯楽に遅れて市場化に乗り出した知識は、娯楽が発見した需要の予測を簡単にする方法をまねて、「啓蒙」の思想によって大衆のあいだに競争心をかき立て、彼らに知識に対する需要をかき立てた。
- ② 生成期の大衆社会はその生活様式を過去の特権階級から奪い取って自分たちの所有としたが、知識に先んじて商品化に成功した娯楽だけは、遊園地や喫茶店など、新規の価値を作り出した。
- ③ 豊かな社会では需要が複雑に多様化して市場の予測が困難であり、娯楽や知識といったサービスも大衆の要求を探り出すことに苦勞したが、やがて需要を簡単に予測する方法を見いだした。
- ④ 岩波文庫が発刊されたころ、特権的知識人と大衆とのあいだに階層をなしていた中間的知識人は、大衆を啓蒙して彼らの教養を高めることに一役買ったが、知識社会の平準化とともにその役割は終焉した。
- ⑤ 今日の教養の危機は無教養を恥じる人間が減り、向上心が衰えたことにも原因があるが、そもそも人文学系統に属する教養が自然科学とは違い、実用性に欠ける点に根本的な原因があるといえる。